

感染症検査担当

調査研究名	研究の概要
<p data-bbox="188 237 539 293">新型インフルエンザウイルスに対する HI 抗体価調査について</p> <p data-bbox="188 338 443 371">研究担当者: 扇谷陽子</p> <p data-bbox="188 439 512 472">研究期間: 平成 21 ~ 22 年度</p>	<p data-bbox="579 237 651 271">【目的】</p> <p data-bbox="579 271 1458 472">インフルエンザウイルスに対するヒト血清中の赤血球凝集抑制(HI)抗体価は、流行の推測やワクチンの免疫原性の評価など、疫学的・免疫学的に重要な情報を提供する。しかし、2009年4月に初めて報告された新型インフルエンザ pandemic H1N1 2009(以下、新型インフルエンザと略)の HI 抗体価推移については、まだ十分に把握されていない。そこで、これらの状況を把握する一端として、ワクチン接種者の、接種前後の HI 抗体価推移について調査した。</p> <p data-bbox="579 472 651 506">【方法】</p> <p data-bbox="579 506 1458 573">試料はインフォームド・コンセントを得られた医療従事者 14 名から、ワクチン接種前と接種後約 3 週間後に採血された血清を用いた。</p> <p data-bbox="579 573 1458 674">HI 抗体価の測定は、季節性インフルエンザの HI 抗体測定方法に準じて、4 単位の不活化ウイルス(A/California/07/2009pdm X-179A)と 0.5% 七面鳥赤血球を用いて実施した。</p> <p data-bbox="579 674 722 707">【結果と考察】</p> <p data-bbox="579 707 1458 887">ワクチン接種前の抗体価について、12 名が 10 倍未満であった。残り 2 名は 20 倍と 40 倍であった。ワクチン接種後の抗体価について、14 名中 13 名が、新型インフルエンザウイルスに対する抗体価が 4 倍以上上昇し、その抗体価は、40 ~ 320 倍の範囲にあった。残り 1 名は、ワクチン接種前後の抗体価に変動がなく、10 倍未満のままであった。</p> <p data-bbox="579 887 1458 1043">季節性インフルエンザのワクチン接種は、効果を高めるため 2 回実施されることが多い。しかし、新型インフルエンザの医療従事者へのワクチン接種は、1 回とされている。今回の調査の結果、1 回のワクチン接種で、9 割以上の 14 名中 13 名が、感染防御に効果があると考えられている 40 倍以上の抗体を獲得できていることが確認された。</p>